

広島県が独自の「新型コロナ医療ひっ迫警報」を発令 夏休み明けから 10 代以下の患者が増加 感染対策の徹底を呼びかけ

9/18(木) 中国放送

広島県は 18 日、新型コロナウイルスの報告患者数が県独自に設定した基準を上回ったため、「新型コロナ医療ひっ迫警報」を出しました。県は現時点で医療がひっ迫している状況にはないとしています。

県によりますと、8 日から 14 日に東部保健所管内で、定点あたりの患者数が「13.56 人」と、基準値の「13 人」を上回りました。夏休み明けから、10 代以下の患者が増加していて、全体の約 50%を占めています。

そのため、県は、現時点では、重症化しやすい高齢患者の割合は低く、医療がひっ迫している状況ではないとしています。今後さらに感染拡大が継続し、医療への負荷が増えないように、県内全域に「新型コロナ医療ひっ迫警報」を発令しました。

警報の発令は、2024 年 7 月 25 日以来です。

新型コロナ感染拡大の恐れ続く 広島県「医療ひっ迫警報」発表

9/18(木) 広島ニュース

県は、新型コロナウイルスの患者が増加したことを受けきょう「医療ひっ迫警報」を発令しました。

現時点で重症化しやすい高齢者の割合は低く、医療がひっ迫している状況ではないものの、今後感染が拡大し医療の負荷が増大しないよう発令したということです。

広島県が今年初の新型コロナ警報 感染者の半数は 10 代以下

9/18(木) 中国新聞



広島県は 18 日、新型コロナウイルスの感染者の増加で医療機関が逼迫（ひっぱく）する恐れがあるとして、県独自に設けた警報を出した。警報は今年初で、昨年 7 月 25 日に次いで 2 度目。夏休み明けから 10 代以下の感染が増えており、感染者の半数を占めるという。

県によると、県東部保健所管内（三原市、尾道市、府中市、世羅町、神石高原町）で直近 1 週間（8～14 日）の定点調査をする 1 医療機関あたりの患者数が 13.56 人となり、県の警報基準の「13 人以上」に達した。ほかの 6 保健所管内は 11.58～6.40 人で、県平均は 9.31 人だった。

年代別では 10 代が 228 人（26.1%）と最も多く、次いで 0～9 歳が 207 人（23.7%）。喉に激しい痛みが生じる変異株「NB・1・8・1」（通称ニンバス）の感染が広がっている。

県は県独自の注意報・警報の基準を設け、昨年 7 月に運用を開始。今年 8 月 21 日に注意報基準の「8 人以上」に達し、注意報を出していた。